

アノのあのお



第2回
国立オペラ・バレエ劇場
(VIVANTと伊豆の国2)

皆さん、サエンバエノー、アノンです。今月も、日本中をモンゴルブームに巻き込んだ人気テレビドラマ『日曜劇場VIVANT』の名場面から、モンゴルを紹介したいと思います。前回ご紹介した『スフパートル広場』には、国会議事堂以外にも有名な建物がたくさんあり、劇中でもいろんな登場の仕方をしています。

例えば、第1話で堺雅人さん演じる主人公の乃木が訪れた銀行は、ギリシャ建築のような重厚な石柱とピンク色の壁が印象的な建物でしたが、あの建物は、『モンゴル国立オペラ・バレエ劇場』で、モンゴル独自のオペラやバレエを公演する唯一の劇場です。この劇場は、私にとって



▲オペラ劇場前にて母や叔母と撮影(真ん中が私)



▲市訪問団が8月に訪問したときの写真(矢印が劇場)

も大切な思い出の建物です。舞台監督だった私の母方の祖父は、この劇場で働き、生涯をモンゴルのクラシック舞台芸術の発展に捧げました。その結果、私の祖父はモンゴル名誉芸術者の称号を授与され、祖父の写真は今でもこの劇場に飾られています。祖父のおかげで幼い時からクラシックバレエやオペラをたくさん見ていたので、ここは私の思い出が詰まった場所でもあります。この劇場が面している『スフパートル広場』には、今年8月、伊豆の国市のモンゴル国公式訪問団や中学生も訪れたので、その時にはきっと、この建物も目にしたことでしょう。さらに驚くべきことに、今から6年前の2017年には、いず

くに大使のピアニスト・海瀬京子さんがこの劇場で、モンゴル日本外交関係樹立45周年記念事業として、モンゴルのアーティストと共同演奏会を開催したというエピソードもあるのです。『モンゴル国立オペラ・バレエ劇場』を通じて、遠い祖国の私の家族と、日本のVIVANTや伊豆の国市が繋がった気がして、とてもうれしいです。市民の皆さんも、モンゴルとのつながりを感じてくれましたか？モンゴルの名所が毎回登場するVIVANTを、「全話をまとめて見たい！」という人に朗報です。12月27日(水)、VIVANTのDVD&ブルーレイボックスが発売されるので、詳しくはTBSのHPをご覧ください。あなたもこのドラマを見れば、きっとモンゴルに行ってみたくなることでしょう。それでは、バイタルタエ。

製作著作・発売元：TBS
発売協力：TBS グロウディア
販売元：TC エンタテインメント



第17回 高橋 美恵 さん

伊豆の国うま広場



ヨナグニウマと この国で生きていく

皆さんは、市内に馬と触れ合える場所があることを知っていますか。『伊豆の国うま広場』は、高原区の静かな山中にあります。そこで私たちを迎えてくれるのは、6頭のヨナグニウマと代表の高橋さんです。ヨナグニウマとは、沖縄の与那国島にいる日本在来種で、全国に100頭ほどの希少な馬です。「初めてヨナグニウマに触れたとき、気が合うと思いました。まさに馬が合ったんです」と話す高橋さん。そ

して、絶滅が危惧されるこの馬の存続のために「何かしたい」と取り組み始めたのが、牧場の経営でした。馬についての勉強や牧場の整備、馬の生活を支えることなど、ゼロからスタートした牧場管理者の道は、決して平坦ではありませんでした。しかし、そんな時に高橋さんを支えたのは、伊豆の国市の友人と、馬が引き合わせてくれた人たち。そして、一番の原動力は共に過ごす馬たちでした。「雪でも台風でもこの子たちは生きていて、ご飯を食べます。だからこの場所が2021年にオープンしてから1日も休んでいないんです。でも、楽しいことしかないですよ。この子たちがいる限り」と馬への溢れる愛情を語ってくれました。今年5月には、この牧場で新しい命が誕生しました。母馬にとっても、うま広場にとっても、初めての出産です。高橋さんが掲げるヨナグニウマの存続に向けた、新たな一歩となる大切な日となりました。高橋さんにとって伊豆の国市は、「馬と生きていきたいと思つた場所」。広場を元気に駆け回る馬たちを見て満足そうな高橋さん。あなたも馬に触れてみれば、高橋さんと同じように馬に魅了されることでしょう。

かんたん手話講座 ④3 読書

小指側を軸にして両手を開く。そのまま左手を残し、左手の手のひらに向けた右手の人差し指と中指の指先を、左手の指先側から、手首側に2回下ろす。

障がい福祉課
☎ 0558-76-8007 FAX 0558-76-8029

静岡県聴覚障害者協会が、聞こえない子どもたちが絵本の楽しさを知り、親子の良好な関係を支援する目的で読み聞かせDVDを作成し、貸し出しています。ぜひ、ご活用ください。

